参考資料－１

ゾーニング名称の検討

第五回 斐伊川流域の水辺を考える懇談会

１：北岸　移りゆく景色を楽しむ水辺　（前回）

◇第４回懇談会意見

丸委員

広範囲に及ぶエリアで中ではその通りで、これを的確に要約する為には「移りゆく湖の景観を楽しむ水辺」とした方が良いのではないか。湖の景観には、松江市の都市型の賑わいを遠景に見るということも含まれ、このような工夫をして欲しい。

◇懇談会後の提案

吉田委員

提案１：変化に富んだ景勝を楽しむ水辺

提案２：変化に富んだ景勝の水辺

変化に富んだ景勝をつなぐ水辺

２：西岸　自然と人がふれあう水辺　（前回）

◇第４回懇談会意見

野津委員

コメントで、「安心して」という言葉がひっかかる。この緑のゾーンには斐伊川河口が含まれているが、斐伊川河口には「危険」という看板があるため、斐伊川を外すか、緑のゾーンを外すかにして欲しい。

藤岡委員

安心してという言葉がなくなると寂しく感じる。
「自然と人がふれあう水辺」は、すんなりくる。
資料の中でも、簸川平野とあるが、子供達も出雲平野と習っているようで、出雲平野で統一して欲しい。

◇懇談会後の提案

吉田委員

提案１：自然との共生を楽しむ水辺

提案２：人と自然が共生する水辺

自然と人のふれあいを育む水辺

３：宍道　宍道湖の香り漂う誘いの水辺　（前回）

◇第４回懇談会意見

藤岡委員

54号から降りてきて、初めて宍道湖を感じる場所である。高速道路の整備が一段落したら何か考えられるのではないかと期待している。
「宍道湖の香り漂う水辺」でよいのに、ふたつの事を並べるとくどい。

木幡委員

国道54号から９号に降りてきたところは、玄関口と捉えて頂きたい。前回も述べたが、新建川までの法面がもったいない。カラフルな草花を植えて「憩いのゾーン」として弁当を持っていけるような場所にすると良いと思う。あまりコンクリートではなく、自然のままでもう少し楽しさがあると良い。自動車道から入ってくる人にも、空から入ってくるひとにとっても、すてきな造形が必要だと考える。

吉田委員

ここだけ嗅覚とするのは不自然で、視覚で表現して欲しい。

◇懇談会後の提案

吉田委員

提案１：水の予感を楽しむ水辺

提案２：人を湖水にいざなう水辺

湖水に人々をいざなう水辺

４：南岸　車窓より自然と人の営みを楽しむ水辺　（前回）

◇第４回懇談会意見

丸委員

最も特色がないところと言えばそうかもしれないが、来待ストーンは歴史的にも地質学的にも非常に意味のある場所で、来待は石を切り出すのに相当大切な役目を果たしていた場所である。
地層は1200m程続いているらしく、宍道湖の地層の下に来待石の地層が入り込んでいるらしい。それだけを強調する訳ではないが、景色を見て楽しむことではなく、歴史などを楽しむという視点があっても良いと思う。
文章はその通りで、商業的な利用で道路と水辺の間は殆どないような場所や、一方では砂浜やヨシを楽しめる場所があるのも事実で、特に１番との対比で特徴を出すとすれば「歴史と自然の恵みを楽しむ水辺」が良いのではないか。恵みを楽しむというのは、商業的・工業的、或いは景観的な恵みも含まれる。

丸委員

ここだけ、車窓よりという言葉が出てくる。何もないから車の中から素通りするのを楽しんでくれというようなことにもとれる為、「車窓より」というのはとった方がよいと思う。自然と人の営みを楽しむ水辺というのも、玉湯との関係もあるので温泉に特化させるのも問題だが、「歴史と自然を楽しむことのできる水辺」など歴史という言葉を加えてみてはどうか。

藤岡委員

１番と４番はどちらも車や電車の車窓から眺めるところだと思う。丸委員から「歴史と自然の恵みを楽しむ水辺」という提案があったが、そのように変えないと北岸と同じになる恐れがある。

木幡委員

９番などでも必ずしも水辺だけがかかれているわけではないので、石切場も良い。しかし、来待ストーンは産業遺跡として薄れていてもっと良い石切場がある。

◇懇談会後の提案

吉田委員

提案１：車窓風景を楽しむ水辺

提案２：車窓より風景を眺める水辺

自然の恵みと歴史を感じる水辺

５：玉湯　旅情を深める趣きある水辺　（前回）

◇第４回懇談会意見

藤岡委員

「旅情を深める趣きある水辺」というように「深める」と「趣き」が２つ並べてありくどい。
「旅情を深める水辺」というように、短いフレーズの方が良いと思う。

野津委員

宍道湖全体を眺望できる場所は、ここだけだと思う。よくバードウォッチングで使用するが、順光で鳥を観察できる為、良く使う。上から見る為、宍道湖の端から端まで全体が見える。フォーゲルパークからは逆光となるが、ここのポイントは鳥がきれいに、しかも良くみえる。

木幡委員

鳥ヶ崎の国民宿舎が今後どうなるかわからないが、湖にあり、非常に高いところから宍道湖の広さを感じる場所だと思う。山陰合同銀行本社ビルの高いところから見て宍道湖がこんなに広いのかという感覚と同じように楽しめるところがこの鳥ヶ崎である。無料の足湯でもずらっと造って宍道湖を見下ろすと気持ちいいだろうと考えている。見下ろせるという宍道湖の高さを文章の中に表現する必要がある。宍道湖のスケールを感じる場所。

◇懇談会後の提案

吉田委員

提案１：湖畔の旅情を楽しむ水辺

湖畔の旅情を深める水辺

６：嫁ヶ島　宍道湖の夕日を愛でる水辺　（前回）

◇第４回懇談会意見

藤岡委員

「宍道湖の夕日を愛でる水辺」などもひとつで良い。

◇懇談会後の提案

吉田委員

提案１：夕日と湖水の移ろいを楽しむ水辺

提案２：夕日と湖水に憩う水辺

移ろう夕日を愛でる水辺

7：大橋川上流	歴史を刻む暮しの水辺　（前回）

◇第４回懇談会意見

丸委員

暮らしというとそこに住んでいるだけということになるが、観光の目玉である水際の旅館や楽しみの場所、カラコロ広場などから、「歴史を刻む賑わいの水辺」といった方が特色があると思う。

藤岡委員

歴史的建造物について、堀川も人工的に創ったもので建造物というのか。

◇懇談会後の提案

吉田委員

提案１：古い日本の面影を楽しむ水辺

提案２：古い日本の面影を残す水辺

歴史を刻み賑わう水辺

８：大橋川中流　緑と碧が広がる水辺　（前回）

◇第４回懇談会意見

吉田委員

キーワードで水郷が、表題では「緑と碧が広がる水辺」という言葉が出てくるところが分かりにくくしている。

◇懇談会後の提案

吉田委員

提案１：水郷の原風景を楽しむ水辺

提案２：水郷に原風景を見る水辺

水郷の原風景を伝える水辺

９：大橋川下流　古の流れを感じる水辺　（前回）

◇第４回懇談会意見

丸委員

突然歴史に特別興味を持った人だけを捉え、一般の人になじむのかと思う。
特に、馬潟から大橋川下流にかけて北岸は山林が迫っているが、南岸は工業地帯もあり、歴史だけに突起するのは違和感がある。

藤岡委員

中の文章はこれで良いと思うが、潮盾島や手間天神社など、確かに風土記を重視し過ぎかもしれない。第５大橋や中海大橋、矢田の渡し付近にも団地がある他、倉庫・工場などもあり、「いにしえ」だけで通すのは無理があると思う。

吉田委員

8番目のその場所がどうであるという特徴をとらえたネーミングであるのに対し、９番では、人の感覚を表したネーミングとなっている。

◇懇談会後の提案

吉田委員

提案１：いにしえの流れを楽しむ水辺

提案２：いにしえの流れを想う水辺

いにしえの流れをいつくしむ水辺

その他　全体に関する事項など

◇南岸：如泥石（じょでいいし）について

木幡委員

どこかの場所に、水辺の整備として来待石を使った波止めである「如泥石」を復活させて欲しい。昔は白潟護岸や嫁が島周辺にたくさん並んでいたが、今は殆ど改修で姿を消してしまっているが、科学的にも進んだものであり、歴史的にも貴重だが実際に見ることが少ない。石を切ってきて丸く掘るだけなので工賃はかからないと思う。歴史に留めるという意味で来待周辺の湖岸など、石切場に近いところでは復活させたらよいのではないか。

藤岡委員

白潟公園端に親水護岸があるが、そこにはめ込んだように如泥石が並んでいたように記憶しているが、そこまで行かないと見えない。殆ど無くなってしまっているように思う。

木幡委員

今の人が見ても分からないと思うので、これが如泥石だという説明（案内板）をつけて欲しい。

◇全体について

藤岡委員

何の為にゾーニングしているのかを考えてみると、湖としての大枠はもちろんのこと、個々のゾーンの特性を捉えて今後の整備に繋げていくのではないかと思う。

木幡委員

相対的に、文章がくどく、長い。言葉をもっと整理しないと、印象がぼやけてしまう。もっと簡略化することを考えて欲しい。

吉田委員

現状説明と人の感覚が混在している。瀟湘八景（しょうしょうはっけい）などは、地名と特徴の組み合わせで非常にわかりやすく、全体的にはもっとすっきりした表現が良い。

藤岡委員

吉田委員が言われた、瀟湘八景（しょうしょうはっけい）のように、短い言葉で的確に表現するのはなかなか難しいかもしれない。